

□議員名：宮本政志

1 市民の生活に優しい交通手段の確保について

論点	地域公共交通網形成計画の策定にあたり、地域公共交通総合連携計画をどのように検証し、どのように盛り込んだのか。
回答	運行の効率化による行政負担の削減、公共交通不便地域の解消、情報提供の充実による公共交通の認知度及び満足度の向上を検証し、高畑・高泊方面への巡回バス路線の新設や、ねたろう号の延伸、厚狭北部地域へのデマンド型交通の導入へとつながった。

論点	地域公共交通網形成計画の人口調査で、65歳以上の人口を年代刻みで把握することや年代別に分けることは可能か。
回答	地域公共交通網形成計画の作成時に年齢刻みで細かく把握しているので、65歳以上を年代別に分けることは可能である。

論点	人口調査の年齢階層別人口で特に老年人口における年代ごとの施策を検討するべきではないか。
回答	今後において公共交通施策を検討する際には、必要に応じて年代ごとの利用傾向やその把握に努めていく。

論点	路線ダイヤ定期券や通学フリー定期券制度の導入など公共交通の利用促進や利用者の増加になることを検討するべきではないか。
回答	通学フリー定期券やJR、バス等の共通乗車券制度の導入や利用者の負担が少なくなる仕組みの導入も公共交通の利用促進には有効な手段だと考えているので、交通事業者とも協議を行いながら十分に制度の効果的な検証をしていく。

論点	厚狭駅や小野田駅にエレベーターを設置していくのか。
回答	1日当たりの平均利用者数が3,000人を超えている厚狭駅を対象に交通事業者によるバリアフリー化が予定されている。但し、小野田駅については交通事業者のバリアフリー化の計画については、現在のところ予定はない。

論点	厚狭駅にはエレベーターが設置されて、なぜ小野田駅にはエレベーターが設置されないのか。
回答	あくまで交通事業者が設置することであり、1日当たりの平均利用者数が3,000人未満の小野田駅にはエレベーターを設置する計画はないが将来的には考えていかなければならないと思っている。

論点	現在の本市におけるデマンド型交通を今後市内の交通不便地域全域に普及させていくのか。
回答	経費の面から人口の少ない地域に対してデマンド型交通を発着させることは大変難しいと考えている。ただし、交通不便地域に何らかの手当はしていきたい。

論点	山陽小野田市公共交通マップの作成計画はないのか。
回答	情報発信はすごく大事なことだと考えているので、山陽小野田市公共交通マップは作成していきたいと思っている。

論点	コミュニティタクシーやグループタクシー等の環境整備やタクシー利用券制度等を検討しないのか。
回答	しっかりと検証し、公平かつ効果的な制度設計となるよう十分に研究していく。